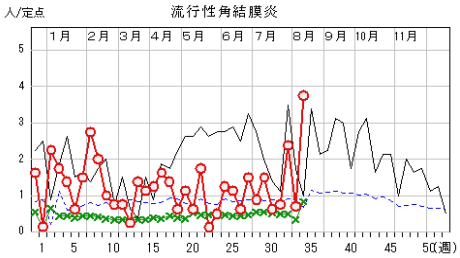
長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第34週　　2026年8月17日（月）～2026年8月23日（日）2026年8月27日作成

☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

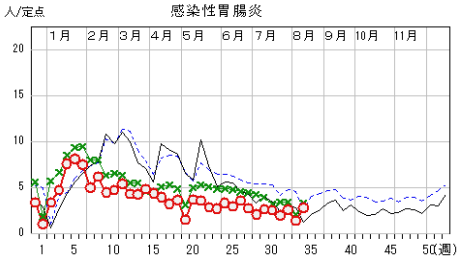
（１） 流行性角結膜炎

第34週の報告数は30人で、前週より25人多く、 定点当たりの報告数は3.75であった。
年齢別では、15～19歳（7人）、１歳（5人）、70歳以上（3人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所（10.00）、県南保健所（6.00）、長崎市保健所（4.33）であった。



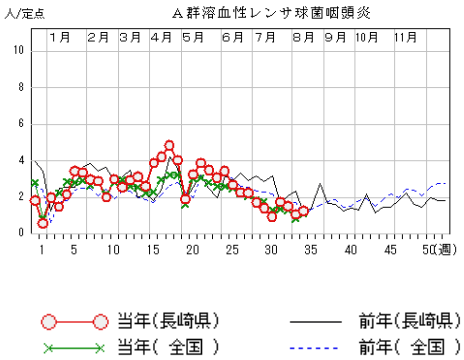
（２） 感染性胃腸炎

第34週の報告数は88人で、前週より45人多く、 定点当たりの報告数は2.84であった。
年齢別では、１歳（14人）、10～14歳（14人）、２歳（13人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所（6.67）、県北保健所（6.00）、五島保健所（4.50）であった。



（３） Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第34週の報告数は39人で、前週より6人多く、 定点当たりの報告数は1.26であった。
年齢別では、５歳（7人）、10～14歳（6人）、３歳（5人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（5.33）、西彼保健所（2.33）、佐世保市保健所（1.50）であった。



※急性呼吸器感染症定点数：50、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位３疾患の概要

【流行性角結膜炎】
第34週の報告数は30人で、定点当たりの報告数は3.75でした。地区別では、西彼地区（10.00）、県南地区（6.00）、長崎地区（4.33）は他の地区より多く、特に西彼地区は警報レベルの報告数となっています。
本疾患は、アデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いので、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

【感染性胃腸炎】
第34週の報告数は88人で、定点当たりの報告数は2.84でした。地区別にみると、西彼地区（6.67）、県北地区(6.00）、五島地区（4.50）は他の地区より多くなっています。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

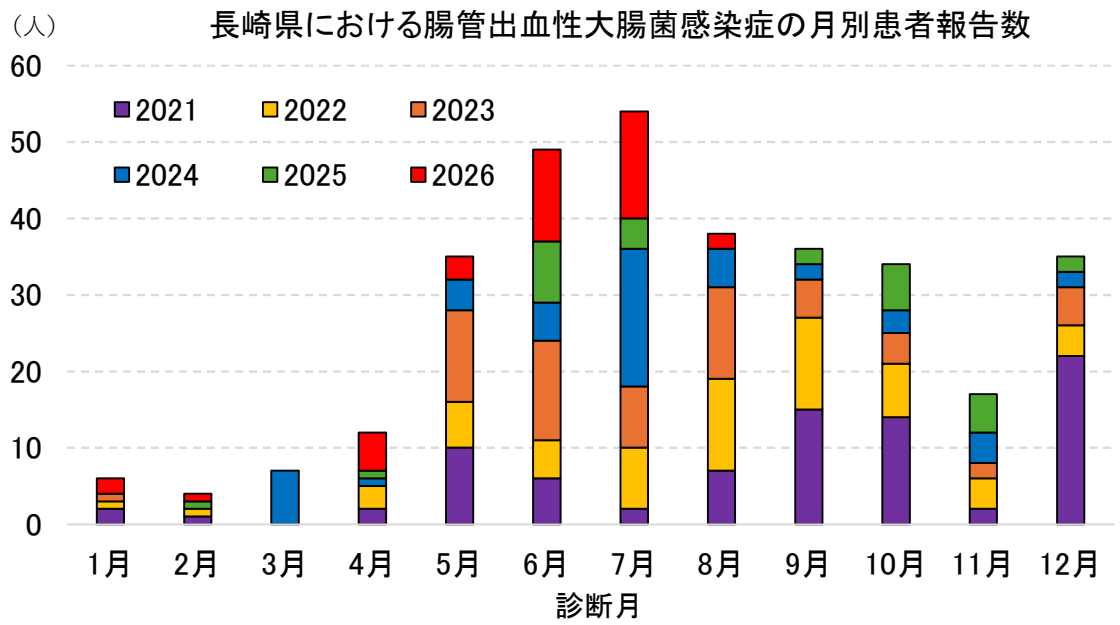
【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】
第34週の報告数は39人で、定点当たりの報告数は1.26でした。地区別では、県南地区（5.33）、西彼地区（2.33）、佐世保地区（1.50）は他の地区より多くなっています。
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。
例年8月をピークに発生数が増加する傾向にあることから、8月4日に県地域保健推進課より注意喚起の情報が出されました。
今後も次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

〇帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
〇肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
〇生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用後すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
〇下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう

●長崎県地域保健推進課（腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう）
https://www.pref.nagasaki.jp/press-contents/50981.html



☆トピックス：県内がインフルエンザの流行期に入りました

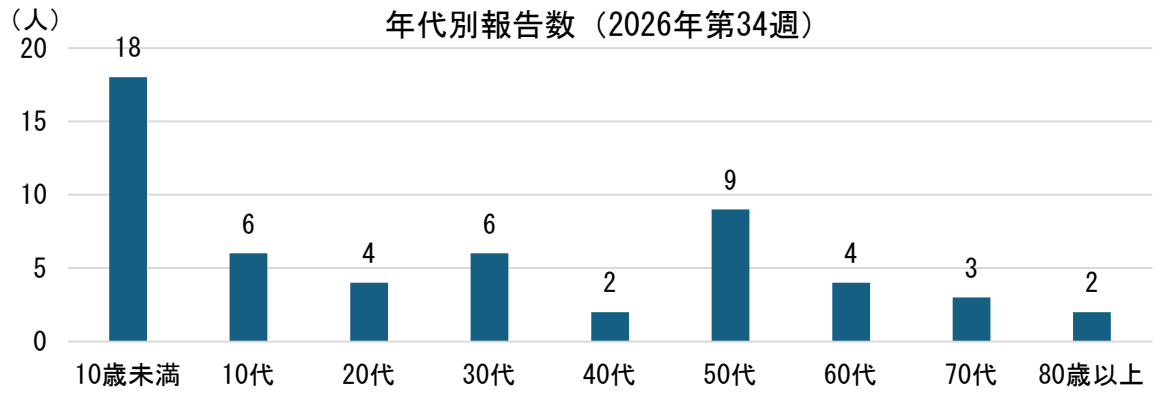
2026年第34週の長崎県全体のインフルエンザの定点当たり報告数が「1.08」となり、流行開始の目安となる「1.00」を上回りました。地区別にみると、壱岐地区（5.33）、長崎地区(1.27）、対馬地区（1.00）は他の地区より多く、「1.00」を超えています。

8月下旬から9月1日にかけて多くの小中学校で新学期が始まることから、今後患者数の増加が懸念されます。手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、10月頃から接種が開始されるインフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、早めにワクチンを接種しましょう。

（参考）長崎県感染症情報センター　「インフルエンザ」
https://www.pref.nagasaki.jp/doc/page-685285.html

インフルエンザの保健所別報告数

	長崎県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
報告数	54	6	14	16	4	5	3	2	1	0	3
定点数	50	7	11	3	5	8	4	3	3	3	3
定点当たり報告数	1.08	0.86	1.27	5.33	0.80	0.63	0.75	0.67	0.33	0.00	1.00



☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。

県内では、４月以降、SFTS 6件、日本紅斑熱 19件の報告があがっています。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。 また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2021年	2022	2023	2024	2025	2026
SFTS	6 (2)	13 (8)	13 (9)	13 (11)	12 (9)	6
日本紅斑熱	28 (13)	22 (3)	14 (9)	24 (14)	25 (16)	19
つつが虫病	14 (3)	7 (0)	15 (5)	11 (1)	2 (0)	1

※(　)は第34週までの発生件数

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核　患者　男性（20代・1名、70代・1名、80代以上・1名）　女性（20代・1名）
3類感染症：報告なし
4類感染症：日本紅斑熱　患者　女性（70代・1名）
　　レジオネラ症　患者　男性（80代以上・1名）
5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症　患者　男性（80代以上・1名）
　　水痘（入院例）患者　男性（80代以上・1名）
　　梅毒　患者　男性（40代・2名）　女性（40代・1名）

◆定点把握の対象となる５類感染症

（1）　疾病別・週別発生状況　　（第29～34週、7/13～8/23）

疾　患　名	定点当たり患者数					
	29週	30週	31週	32週	33週	34週
	7/13～	7/20～	7/27～	8/3～	8/10～	8/17～
インフルエンザ	0.73	0.41	0.69	0.48	0.58	1.08
新型コロナウイルス感染症	8.98	5.02	4.12	2.94	1.08	1.12
ＲＳウイルス感染症	1.48	0.90	0.87	1.52	0.94	0.87
咽頭結膜熱	0.45	0.32	0.48	0.42	0.23	0.61
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.42	0.94	1.74	1.52	1.06	1.26
感染性胃腸炎	2.65	2.55	2.00	2.58	1.39	2.84
水痘	0.19	0.35	0.19	0.52	0.23	0.77
手足口病	3.94	2.90	2.03	1.94	0.74	0.48
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.06	0.13	0.06	0.10		0.03
突発性発しん	0.29	0.26	0.35	0.29	0.35	0.42
ヘルパンギーナ	1.26	0.65	1.10	0.68	0.52	0.68
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.06	0.06		0.03		
急性出血性結膜炎						
流行性角結膜炎	1.50	0.63	0.75	2.38	0.71	3.75
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎					0.08	
マイコプラズマ肺炎	0.42	0.17	0.25	0.17	0.08	0.17
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0.08				
急性呼吸器感染症（ARI）	59.08	45.88	50.24	52.68	33.40	42.32

（2）　疾病別･保健所管内別発生状況　　（第34週、8/17～8/23）※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾　患　名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	1.08	0.86	1.27	5.33	0.80	0.63	0.75	0.67	0.33		1.00
新型コロナウイルス感染症	1.12	1.29	1.09		0.60	0.88	1.00	2.00	1.00	2.00	2.00
ＲＳウイルス感染症	0.87	1.00	1.50		1.00	0.60	2.33				0.50
咽頭結膜熱	0.61	0.25	0.50		1.33	0.60	0.67	2.00			1.00
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.26	1.50	0.33		2.33	1.00	5.33	1.00	0.50		
感染性胃腸炎	2.84	3.75	2.50	0.50	6.67	2.40	1.33	6.00	4.50		
水痘	0.77	0.50	1.33				4.33		0.50		
手足口病	0.48		0.67		1.00	0.60	0.33	1.00	0.50	0.50	
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.03					0.20					
突発性発しん	0.42	1.00	0.83	0.50		0.20				0.50	0.50
ヘルパンギーナ	0.68	1.00	1.33		0.33	0.60		2.50			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	3.75		4.33		10.00		6.00		1.00		
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.17		0.67								
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	42.32	45.43	66.09	27.00	56.40	48.63	31.25	23.00	11.33	12.00	18.33